

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市宮崎地域ケアプラザ

■ 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行ったのか、具体的に記載してください。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

- ・ 第一地区は新しいマンションの住民把握、関係性が脆弱です。その中でも地域で話しあい、平成 31 年度わいわいランチを開催することになりました。
- ・ 第 4 地区は一人暮らし高齢者が多い地区です。山坂が多く、唯一の交通手段であったバスがプラザのもより停留所で停まらなくなり、プラザに来館できない高齢者や支援を求める声が出せない住民がいます。
- ・ 第 4 地区はみんなの食堂など住民活動が盛んですが、地域によって差異があります。活動が少ない地域にケアプラザからアプローチし、防災活動の視点から地域ケア会議を開催し、日ごろの地域のつながりが大切であることを地域の皆様にお伝えしました。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

- (ア) 総合相談窓口として全分野のパンフレットを常置したほか、職種ごとに収集した地域の社会資源を一冊のファイルにまとめました。また、閲覧カードを作成し、来館者が誰でも閲覧できるような工夫も行いました。
- (イ) 個別相談で重篤化していたケースや、地域住民からの相談については、エリアマップにシールを貼りました。地域包括支援センター機能の周知は、みやざき広報紙に毎回掲載しました。また、地域活動交流の認知症予防を主目的とした自主事業には毎回参加し、相談しやすい環境づくりを行ないました。ふれあい会定例会や民児協にも毎回参加したほか、地域の食事会等にも参加して、地域包括支援センターの機能を周知しました。

(2) 各事業の連携

- (ア) 毎月 1 回、5・4・3 会議（5 職種・4 職種・3 職種の順番で議題を進めていく会議）を開催し、職種間での情報共有や意見まとめをしました。また、隔月では、5 職種会議の場をケアプラ版推進会議と位置づけ、区役所・区社協とも連携しました。
- (イ) 上記の会議は月に 1 回なので、情報共有が遅れないよう、連絡ノートとしてサーバー上に記入し、5 職種と所長で記入、確認を行いました。また、より連携を取りやすくするため月次カレンダーを作成併用し、翌月の地域行事にどの職種が参加するかを確認し合いました。
- (ウ) 地域活動交流の自主事業参加者の認知症の進行については、4 職種の会議で共有し、介護保険のサービスにつなげました。逆に、個別支援で、デイサービスに抵抗のある相談者を自主事業につなげるなど、連携を図りました。
- (エ) 事業・会議の記録も共有しています。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

- (ア) 各事業の資格要件及び職員配置基準を満たした配置をしました。
- (イ) サブコーディネーターが事業を担当し、ボランティアの皆さんと振り返りを毎事業後開催しました。参加者や講師の関わりも含めて状況を把握し、顔の見える関係を構築しました。夜間単発の認知症予防の健康麻雀教室でもボランティアさん、CO、サブCOが協力しながら開催しました。
- (ウ) 4月から11月までの外部研修42回、内部研修月1回、デイ実技研修月1回、法人内リーダー研修4名参加、法人内事務研修3回1回につき3名参加。外部・内部研修は研修報告を施設内で伝達研修しました。法人リーダー研修（内包括2名）研修概要：回数8回。時間：1回2.5時間。2コース。1コース目 福祉施設運営のための中堅職員基本コース 目的：現場の要となる中堅職員としての役割行動について理解を深めました。現場におけるコミュニケーション問題解決については演習を行いながら現場にて実践できるようにしました。また、参加者同士で情報交換・意見交換する場を多く設け、他メンバーから学ぶ・気づく働きかけを行いました。2コース目 マネジメント力養成 アドバンスコース 目的：面談力を含めた部下のモチベーション向上を踏まえた働きかけについて理解・習得します。法人理念の共感をはじめ職場ビジョンの確立を通じた職場メンバーの行動表出について考えていきました。また、介護職の自立性向上をめざして、仕事を楽しむことを通じた職場活性化に目を向け、活気ある風土づくりにつなげていきました。
- (エ) 個人情報保護についての研修を部内研修で1回開催、各部署会議にて毎月個人情報チェックリスト実施 都度出席者全員で確認。議事録に掲載し全職員が確認できるようにしました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

- (ア) 民生委員児童委員の定例会には毎回参加し、ふれあい会交流会がある地区では、交流会にも参加しました。また、自治会のふれあい会定例会にも参加している自治会があります。
- (イ) 地区懇談会の部会には、部会での議論のテーマに合わせて、適切な職種が参加するよう参加職員を選出し、複数名で参加しました。また、ケアマネジャーと民生委員の交流会として、インフォーマルサービスの重要性を共有するケアプラザレベル地域ケア会議を開催しました。
- (ウ) 通学路パトロール支援として、小学校・警察署・交通安全協会と連携し、6月に戸部小学校給食交流会を開催し、通学路パトロールの担い手支援について協議を行いました。また、スクールパトロール地域打合せを戸部小学校コーディネーター、地区委員と2回開催し、給食交流会で出された隊員からの活動に関する質問を協議し、区役所担当部署へ照会を行い、隊員への回答を行いました。
- (エ) 地区支援チームに参加し、活動量の少ない自治会町内会への働きかけにおいて、防災を糸口に地域ケア会議を開催し、発災時に備えて、平時の見守りの大切さを伝えました。

(5) 区行政との協働

- (ア) 地区支援チームに参加し、活動量の少ない自治会町内会への働きかけにおいて、防災を糸口に地域ケア会議を開催し、発災時に備えて、平時の見守りの大切さを伝える場として、2月に開催しました。
- (イ) 第一地区では地区支援チームと協働し、第一地区情報紙「にこまち1」発刊に向けた地域活動情報や写真資料を共有した他、とべキッズハロウィンの開催時に交通誘導スタッフとして参加しました。第4地区では地区支援チームと連携し、みんなの食堂やふれあいクリスマスコンサートの活動支援を行いました。
- (ウ) まもり隊の活動支援を目的として、みやざき広報に隊員募集の案内を行いました。

た。(1月号)

(エ) コーディネーター連絡会などで区社協、区内ケアプラザと連携し、にこまちフォーラムでの発表を目標とした、歌をツールとして地域づくりを担っていくこども応援団合唱練習の実施を行いました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

(ア) 自主事業(イ参照)は脳トレ、西区推奨の体操等で筋力の強化、口腔体操、生活改善、栄養改善、引きこもり防止として社会参加並びに福祉保健活動の呼びかけ等を図り、継続して認知症・介護予防を重点的に行いました。また、地域の参加者に生活の中にすぐに取り入れられることが必要と考え、事業のレクリエーションなどに取り入れて、生活の活力が得られるような場所を目指しました。

(イ) また、5職種の連携を活かして募集定員外に特別枠として「包括枠」を設け、独居の方を中心に受け入れていきました。

●ワンコイン音楽サロン

開催時に行っている腹筋ストレッチと発声練習は、参加者の習慣になっています。これを重要なカギとして生活に活かされるよう、身近な歌とともに進めました。製菓ボランティアは季節のお菓子を作るため、全員で打ち合わせをしながら作り提供しました。

●新大人の学校

脳を活性化させる色文字読みテスト(ストループテスト)間違い探し、パズル、難読漢字、昭和クイズなどを取り入れ、認知症改善、介護予防を図りました。ストループテストは他の学習サロンでレクとして取り入れられました。

●大人の学校

毎回の開催終了後にボランティアサポーターとともに参加学習者個人単位に対しての当日の様子等振り返りを行い、認知症症状等の見守りの強化をしました。レクリエーションでは「くらしのノート」と題して月1~2回めどで 包括連携の成年後見制度、地域リーダーと防災について、ケアプラザ協力医からフレイルなどの座学や体操など健康づくり等の講座を行いました。福祉保健協力団体からは楽器演奏や体操のレクチャーを受けました。

●しあわせサロン宮崎

受付時から包括とともに参加者と交流、見守りが必要と考えられる方との傾聴を行いました。食事の提供は高齢者の身体に合った季節の食材選びや量などサブコーディネーターと打ち合わせをしました。レクリエーションではシニア体操グループや神社庁の読み語りなどを披露しました。また9月には昨年度から続いている昔遊びの伝承やふれあいを目的とした多世代交流を西区近隣にある国際幼稚園と開催しました。

●天使のほっぺ

定例講座の離乳食講座や地域の保育園園長の発育講座の他にリトミックなどを行いました。また、夏に気軽に参加できるプール遊びの日を設け参加者を募りました。

●マージャンクラブ

認知症予防に有効な事業として、キャンセル待ちの参加枠を作り、参加を促し今年は4~5名通常参加に登録しました。また自主グループを作る計画としては、初心者脳トレマージャンを単発で開催しました。これを機に地域での出前講座を開催しました。

●男性のための料理教室

今回も自宅でも作れるようなレシピを考え、共同作業の中で、料理の基本を構築していきました。新たに、通常参加者1名、包括枠での参加者1名の合計2名が参加されました。

●小学生の自由研究

科学実験教室、夏休み工作教室、パン作り教室では共に家庭にある材料を使い、物を作っていくプロセスと役割分担でのグループワークの大切さを学びに図っていきました。パン作り教室は72名と、希望人数の受け入れをスムーズにするために整理券を作成し、参加希望者す

べてを受け付ました。また、受付時に保護者への参加方法の説明をしました。

●障がい児・者の余暇活動支援

障がい施設の参加者では前年度からの希望もあり、中学生、高校生も受け付けました。多年齢の中で生徒同士の見守りも有り、充実していました。新規の地域ボランティアが参加し、参加者との交流を図りました。

●宮崎アフタヌーンカフェ

年2回実施し、福祉保健協力団体Ⅱの3つの団体の協力がありました。

●宮崎まつり

生活支援主催をサポートし、主に販売担い手と会場催事の担い手の地域人材の設定をしていきました。

●多世代交流

近隣の小学校総合授業の受け入れ側として多世代の交流を企画しました。

●ボランティア交流会

宮崎地域ケアプラザ内に活動するボランティアを主体に、それぞれの情報交換や交流の場として2月に開催しました。

●他地域ケアプラザ共催の企画

今年は旭区と中区のケアプラザで「ふれあい歴史ウォーキング」を共催しました。全5ケアプラザで地域を越えた仲間づくりの開催となりました。

●初心者脳トレ健康マージャン教室

単発で3回シリーズとして、認知症予防効果が期待できるマージャン教室を開催しました。地域の指導ボランティアを募ることができ、充実した講座になりました。

●シニアのためのスマホ教室

通信会社の協力をもとに、生活におけるスマホの取り扱いの疑問の解消を図りました。

●その他

包括健康づくりが主催の「歴史ウォーキング」のサポートで地域の参加者の健康づくりに貢献しました。

3月には野毛山荘と共催で「シニアボランティアポイント研修」を開催しました。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

(ア) 福祉保健協力団体のレクボランティア活動の場として学習サロン(12月現在まで9団体)食事会(今年度5団体実施2回予定)、カフェサロン(6月11月年3団体開催)、デイサービス(延べ52団体)、宮崎まつり(年1回12団体)への呼びかけを行い、活動につながりました。

(イ) 夜間貸室の稼働率をあげる為、福祉保健協力団体に、レクリエーション活動をするための練習の場として提供しました。また、継続して貸室予約状況表を掲示し、空き状況を分かりやすく周知しました。これにより、昼間のレク活動前後空室が分かりやすくなり、有効な練習時間を設けられました。また、継続していくことを目的とした脳トレマージャン講座は夜間に開催することで、夜間稼働率をあげました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

(ア) 各自主事業におけるボランティアの育成を行いました。ボランティア活動の説明時では地域でのプラザの役割や、参加し活動することで地域の活性に重要な役割を担うことなどを話し、理解を得ていきました。学習サロンサポーターは顔をよく知る関係を生かして見守りの強化を行いました。

マージャンクラブのボランティアにゲーム進行が潤滑に進めるよう、キャンセル待ちの人員へのゲームサポートと見守りを依頼しました。また、各自主事業のボランティアに新規事業のボランティア参加の声を掛け、余暇活動には2名、脳トレマージャンには1名を参加につなげました。デイサービスレクはデイ職員との連絡をこまめにし、必要機材の準備など活動しやすい環境を作りました。

演奏団体が多い為、デイの既存の歌集を共有するようにしたことから、曲目の設定がスムーズになり、ボランティア活動の記入簿の作成で福祉保健協力団体の活動を明確にし、活動後の振り返り表を活用する事で次回の参加の声かけがスムーズになり、交流ができることで自主的に予約を取る団体が増えてきました。

今後、包括の健康づくり活動で始動しているボランティア団体「元気活動応えん団」も交えて事業の設営に関わることなどボランティア活動の提案をしていきます。また、シニアボランティアポイント研修参加の声掛けを継続していきます。

- (イ) 今年も継続して自主事業である「アフタヌーンカフェ」の出演に、音楽活動に関係した福祉保健協力団体へ声掛けし参加を図り、3団体の出演につながりました。自主事業などの開催時間に合わせて団体全員が貸室利用時に活躍できそうなボランティア活動を提案し、各団体と打合せをして、実際の活動につながっていました。また、生活支援の地域の活動に既存のボランティアに声を掛けました。
- (ウ) 区社協、区内ケアプラザと連携し、にこまちフォーラムに向けてコーディネーター連絡会などでにこまちこども応えん団を構築し手話や合唱練習をしました。また、ボランティアネットワーク構築の為に2月にボランティア講座と交流会を開催しました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- (ア) 子育て事業の参加者へ、スマイルポートのスタッフやろぜっと保育園の講師から子育てに関する情報を提供し、ボランティアのお話会やリトミックの講師から地域活動情報を周知すると同時に口頭やチラシなどで他の子育て事業を案内し、参加を促しました。学習サロンでは他事業のレク等で同じテキストの紹介や実施、チラシを配布する等参加者増の取り組みをしました。小学校自由教室では、開催要項を盛り込んだチラシを小学校で家庭数配り、ご家庭へケアプラザのPRを図りました。
- (イ) 広報紙『みやざき』へ事業の案内や地域の居場所情報を載せて全戸回覧し、広報紙を法人のホームページにも掲載して更新しました。また、地域活動交流が窓口となって、地域交流の自主事業だけでなく他部署事業のチラシを集約し、法人ホームページに毎月掲載しました。
- (ウ) 参加者増を目的に、福祉保健団体の活動紹介やメンバー募集の掲示を継続して館内に掲示しています。継続して掲示している貸室状況表（4か月）の掲示板手前に月の予約状況割合などを強調して利用を促しています。また、福祉保健活動をスムーズに実施できるよう、団体の発表の場となるレクリエーションボランティアの予約状況表を月次単位で掲示しました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

- (ア) 5職種会議を月1回開催し、ケアプラザ版推進会議を隔月で開催し、5職種、区役所、区社協間での情報共有を行いました。他地域ケアプラザの生活支援コーディネーターとインフォーマルサービスリスト作成に向けたノウハウを共有し準備を進めました。
- (イ) 「戸部のお茶の間」で12月より地域活動交流事業の出前講座として麻雀サロンを試験的に開催する他、「伊勢体操サロン」開催後に、包括による、よろず相談を開催し、独居高齢者や引きこもりがちな人への支援を開始しました。
- (ウ) 伊勢町一丁目町内会館を活用した介護予防の為のサロン立上げに向けた協議体を2回開催し、7月より伊勢体操サロンが正式にスタートした。サロン運営の為のノウハウや、にこまち助成金、小地域福祉活動助成金を紹介し、運営が円滑に開始されました。
- (エ) 東が丘、東ヶ丘西部、赤門町町内会の自治会・町内会長に働きかけて、2月に東小学校地域防災拠点運営会議を活用した地域ケア会議（協議の場）を開催し、会議では、高齢者を始めとする災害弱者への日頃からの見守りが、災害時の減災

に繋がることについて意見交換しました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

- (ア) 独居高齢者世帯へ包括職員と同行訪問を行い、ヒアリング調査を実施しました。訪問時、不在宅が多く十分なニーズ把握ができませんでしたが、今後も調査を継続していきます。
- (イ) 生活支援コーディネーターを中心として 5 職種で買い物支援やシニアクラブ活動などのインフォーマル情報を収集し、閲覧カードの作成や AYAMU への入力を行いました。
- (ウ) 伊勢町 1 丁目、東ヶ丘西部エリアの高齢者データ、地域資源の情報収集を行いました。伊勢町サロン地域打合せのために、地域情報の現状と課題を分析し、プレゼンテーションが出来る資料を作成しました。
- (エ) 今年度から新たに、第一地区、第 4 地区のシニアクラブ定例会に出席し、顔の見える関係づくりを行いました。シニアクラブからの依頼を受け、包括職員も出席し出張講座の紹介や、包括主任ケアマネジャーによる「高齢者の住まい・入所施設」に関する資料を配布し説明を行いました。シニアクラブの活動内容を把握する目的で、各町会にシニアクラブ活動情報リストを配布し回収しました。回収したリストを基に課題を整理し、今後の活動支援に活用していきます。

(3) 連携・協議の場

- (ア) 第一地区懇談会高齢支援部会（協議体）を 2 回（4、9 月）開催しました。新たに立ち上がった 2 箇所（居場所「桜木カフェ」、「戸部のお茶の間」）の担い手やプログラムなどの事業展開について協議し、第一地区懇談会の他部会と連携しながら進めて行くこととなりました。高齢支援部会では、今後第一地区の高齢者ニーズを把握し、新たに取り組むテーマについて協議を継続していきます。
- (イ) 住民主体の高齢者支援を協議できるよう、伊勢一サロン（第 4 地区）の運営メンバーに働きかけ、12 月に伊勢一協議体を開催しました。伊勢町一丁目町内会館を活用した、介護予防を目的としたサロン開催に向けた協議を行い、具体的なプログラムについて検討しました。
- (ウ) 戸部小学校へ働きかけて、学校コーディネーター、地区委員とスクールパトロール地域打合せ会議を 2 回開催し、隊員不足について議論し、取り組みの一つとして、宮崎広報の「生活支援コーディネーター便り」の中でまもり隊の活動紹介と隊員募集を行いました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

- (ア) 区版推進会議に出席し、区役所・区社協・他地域ケアプラザ等と情報を共有すると共に、ケアプラザ版推進会議を隔月で開催することで、区版推進会議の重点取組みを 5 職種で詳細に共有しました。
- (イ) 西区ケアマネ研究会主催の介護予防ケアマネジメント研修に参加し、他 CP の生活支援コーディネーターと共に、エリア内のインフォーマルサービスについて紹介し、事業所のケアマネジャーへ研修を行いました。主任ケアマネとケアマネ事業所へ同行訪問を行い、生活支援体制整備事業についての説明とインフォーマルサービスの案内を行いました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

- (ア) 新たに立ち上がった地域の居場所情報、区役所からの制度の情報、介護予防講座の情報など、職種ごとに収集した社会資源を一冊のファイルにまとめ、他職種所管の情報でも速やかに相談者に提示できるようにしました。
- (イ) 地域の食事会や居場所には、上半期で 21 回参加し、延べ 268 人に、地域包括支援センターについて周知しました。
- (ウ) 地区支援チームに参加し、第一地区社協の「元気かい」や第 4 地区社協のみんなの食堂などに参加し、地域との連携を強化しました。また、東ヶ丘や赤門など、ケアプラザから遠い地域へ働きかけを続け、2 月には防災活動を糸口とした「平時からの見守りの大切さ」をテーマにした地域ケア会議を開催しました。
- (エ) 昨年度に引き続き、地域住民からの相談をエリアマップにシールでマークしました。ふれあい会がない地域からの相談が少ないことなど、今後の地域ケア会議に活かしていきます。
- (オ) 個別レベル地域ケア会議で、高齢障がい世帯について取り上げ、障がい関係の職員にも参加していただきました。また、自立支援協議会の個別支援会議の事務局として活動し、隔月に 1 回、高齢障がい世帯の事例検討会を開催しました。高齢分野からの参加について周知を強化し、ケアマネジャーの参加が昨年度から倍増しています。

②実態把握

- (ア) 個別相談の件数は、昨年度に引き続き、四半期ごとに町別に件数をチェックし記録しています。また、エリアマップ上で、地域からの相談者宅にシールを貼っています。
- (イ) 地域の食事会や居場所には、上半期で延べ 21 回参加しました。参加時には、いつでも相談を受け付けられるよう、相談用の資料を持参しました。また、地域住民と話をする機会が増えたことで、区をまたいでのマージャンクラブの存在や食事会以外にもお茶会を開催している自治会があることなど、新たな情報を得ることが出来ました。個別のアンケート調査は、生活支援コーディネーターと連携し、ひとり暮らし名簿訪問の場を利用して実施しました。アンケート結果は、アンケートの主旨からコーディネーターがまとめ、今後の地域資源の開発に役立てます。
- (ウ) 地域の情報は一冊のファイルにまとめたほか、地域交流コーディネーターが作成した閲覧カードを用いて相談時に役立てています。また、5 職種ノートを活用し、情報を速やかに共有するとともに、毎月 1 回の 5 職種での会議を継続し、地域の実態把握をしています。

③総合相談支援

- (ア) 訪問する時は、介護保険に関する資料だけでなく、介護予防講座や自主事業の資料も持参し相談内容に応じて、その場で情報提供できるようにしました。また、介護予防講座や自主事業のチラシが更新されているかどうか、職種間で声を掛け合いました。
- (イ) 相談票は必ず 3 職種と所長で回覧して情報共有しました。また、週 1 回程度のミーティングを開催し、医療・権利擁護・ケアマネ支援など複数の課題がある相談者については、内容に応じた専門職と一緒に訪問しました。
- (ウ) すぐに介護保険に結びつかない、結びつけるまでに環境を整える必要があるなど、地域包括支援センターとして継続した支援が必要なケースについては、ケースファイルを作成し、経過を記録するとともに、経過が追記されたファイル専用のファイルケースを用意し、速やかに他職員が確認できるようにしました。
- (エ) 自主事業や地域のサロンにいきたいけれど行かない方がいらっしゃいます。コーディネーターと共有し、宮崎まつりを利用して試験的に、公用車での送迎を実施し

ました。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- (ア) ケアプラザ単独事業として、普及啓発とニーズ掘り起しのための成年後見人制度の講座を開催し、エンディングノートの活用についても普及啓発しました。全戸回覧のケアプラザ広報紙への掲載は4月に実施しました。また、区役所の無料法律相談に同席したり、法テラスにつないで同席したりと、機関へつなぐだけでなく具体的に継続した支援となるようにしました。
- (イ) 家族信託の講座は、4包括社会福祉士と区役所・区社協と共催で、6月16日(土)に実施し、17人の参加がありました。講師に成年後見人制度について併せてご講義いただいたことで、権利擁護についての選択肢の幅を広げる場となりました。
- (ウ) 4包括社会福祉士と区役所・区社協共催で、ふれあい会全体研修の場を利用して、消費者被害防止の普及啓発活動を行いました。普及啓発だけでなく、顔の見える関係づくりとして、会員の方たちと日頃の活動についてグループワークで意見交換を行いました。また、エリア内郵便局に出向き、地域包括支援センターのチラシや成年後見人制度講座のチラシ配架を依頼しました。

②高齢者虐待への対応

- (ア) 主に、介護保険サービスが中止したケースやその周辺などを中心に、虐待防止・早期発見のためのチラシをポスティングしました。また、ふれあい会定例会や民生委員定例会に出席し、相談の呼びかけを行いました。1件は、被虐待者と思われる住民からの相談を受けた民生委員からの相談があり、区役所と連携して対応しました。(結果的に虐待の前に、分離することで、虐待には至りませんでした)
- (イ) 通所介護事業所への虐待防止出張講座は、3ヶ月毎にチラシをFAXし、年間で6回開催しました。
- (ウ) 新規での虐待受付票を用いた通報はありませんでしたが、昨年度から継続して養護者支援を行い、その際には、区役所と密に連絡を取り合い役割分担(介護者のつどいへの声かけや訪問など)しました。
- (エ) 自立支援協議会の個別支援会議事務局として活動し、隔月に1回、高齢障がい世帯の事例検討会を開催して、連携を強化しました。また、介護者のつどいに積極的に参加していただけるようにする取り組みのひとつとして、当事者が特技とする踊りを披露していただく場面設定をするなどの工夫を行いました。また、今年度初めてエリア内キャラバンメイト交流会を開催し、当事者と見守る側の関係構築には、自治会町内会ごとの認知症サポーター養成講座を開催して、住民同士の顔の見える関係づくりが重要であることなどが議論され、年度内に2回開催しました。顔の見える関係が構築されれば、介護者のつどいの際にお手伝いいただくなど、活発な活動に発展させることが期待できます。

③認知症

- (ア) 区内の企業(交通局)からの認知症サポーター養成講座依頼があり、12月3日(月)開催しました。小学校については、今年度の実施はありませんでしたが、エリア内の中学校へのアプローチを始めています。
- (イ) 見守りの目を増やすことを目的に、野毛山荘(老人福祉センター)の利用者を主な対象者に、認知症サポーター養成講座を開催しました。また、エリア内の中学校にアプローチしています。現在のところ、開催や具体的な予定には至っていませんが、必要性を学校側に継続して伝えていきます。
- (ウ) 今年度初めて、エリア内メイト交流会を開催しました。8名の参加があり、DVDの鑑賞と意見交換会を行いました。意見交換では、自治会町内会など小単位で講座を開催することにより、住民同士が見守りあう関係になるようにする必要性があると意見が一致しました。年度内に2回実施済みです。

- (エ) エリア内からのキャラバンメイト推薦枠は、民生委員定例会の場を利用して説明したところ、立候補がありました。
- (オ) 地域活動交流との連携では、個別相談から認知症予防の自主事業につないだり、自主事業参加者をケアマネジャーにつないだりしました。また、月に1回は、地域活動交流コーディネーターと包括とのミーティングを開催し、自主事業参加者の認知症進行の程度について確認し合いました。
- (カ) 介護者のつどいは、在宅介護者のつどい「あけぼの会」との交流会として2回実施し、延べ9名の参加がありました。若年性認知症当事者にもご参加いただき、特技である踊りをご披露いただいたり、介護者に認知症の理解を深めていただくため、DVDの上映をしたりしました。2月には、リフレッシュ企画としてホットケーキ作りを実施しました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

- (ア) 居宅介護支援事業所5箇所を訪問し、地域社会資源の情報を提供するとともに、ケアマネジャーのニーズや課題を収集しました。そのうち4箇所は生活支援Coと共に訪問しました。また、情報の周知をすすめるため、担当者会議や契約時には個別に合わせた情報を提供しました。
- (イ) ケアプラザレベル地域ケア会議を1月に開催し、地域の社会資源を担う関係者と、ケアマネジャー、民生委員との交流と意見交換を行いました。
- (ウ) エリア地域の郵便局を訪問しました。コンビニ、スーパー、商店へコンビニガイドも持って訪問するなど、関係構築を図りました。
- (エ) 地域の食事会、サロン、ふれあい定例会に出席し、介護予防や社会資源の情報を提供するとともに、個別相談を受け、情報提供やケアマネジャーとの連携を図りました。
- (オ) エリア内に新設された通所リハビリ事業所を訪問し、包括の周知を図りました。

②医療・介護の連携推進支援

- (ア) 「認知症のひとと家族を見守る多職種ミーティング」は、当初、認知症ガイドを基にした多職種による意見交換会を予定しましたが、準備段階で「認知症のひとを介護する家族の気持ち」を掘り下げる必要があると考え、テーマを変更しました。介護家族の生活の実情と意思を、出席した認知症専門医と共有することができ、その後の個別支援に連携して取り組んでいます。また、「認知症の理解」について、今後取り組むべき課題も見出すことができました。
- (イ) エリア地域の医療機関（医院2箇所、薬局2箇所）とエリア外の精神疾患に特化した訪問看護事業所を訪問し、ケアプラザ事業チラシの配架を依頼し、社会資源情報を提供しました。個別ケースについて医師からの相談を受け、ケアマネジャーとの連携を図りました。
- (ウ) 西区在宅医療相談室事務局会議に出席し、情報共有と連携を図りました。

③ケアマネジャー支援

- (ア) 「認知症のひとと家族を見守る多職種ミーティング」は計画のテーマを変更しましたが、「家族の対応・支援」「サービスや支援拒否」「認知症」を課題としたケースについて、ケアプラザレベル地域ケア会議を開催し、個別に医師とケアマネジャーとの連携をはかりました。
- (イ) 「家族の対応」「サービスや支援拒否」のケースについて地域ケア会議やカンファレンスを開き、ケアマネジャーと包括が協働して支援しました。また、家族が障がいを持つケースについて個別レベル地域ケア会議を開催し、計画相談担当者とケアマネジャーとの連携をはかりました。民生委員、ふれあい会、地域の障がい福祉施設職員にも参加していただき、情報を共有しました。また、ケアプラザレベル地域ケア会議で抽出された「認知症のひとを介護する家族の気持ち」をケアマネジャーの支援に活かすため、実践報告を取り入れた勉強会をケアマネジャー向けに、来年度はじめに実施する予定です。
- (ウ) ケアマネサロンを7回開催しました。

- (エ) 西区 4 包括主マネ共催で、新任・就労予定ケアマネジャー向け研修会を、1 月に開催しました。
- (オ) ケアマネジャーからの相談を受け、同行訪問やカンファレンスを開き、随時対応しました。金銭管理や後見制度についての相談や、不安定な病状についての相談など、困難事例の相談が多く寄せられ、内容に応じた専門職がかかわり支援しました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- (ア) ケアマネジャーから相談を受けた 2 件の困難ケースについて個別レベル地域ケア会議を開催し、地域、関係機関と連携しながら支援をしました。また、地域から相談を受けた 1 ケースについて個別レベル地域ケア会議を開催し、サービス B につなぎつつ、地域の見守りを継続しています。マンション管理人を巻き込んだ地域ケア会議については実施していませんが、管理人と利用者との個別の関係性に合わせた支援をすすめています。
- (イ) 個別レベル地域ケア会議をふまえ、地域の見守り、食事会、サロン、カフェ、サービス B の関係者とケアマネジャー、民生委員との交流会、意見交換会を 1 月に開催しました。
- (ウ) ふれあい会のない東ヶ丘、赤門町地域について、防災活動を切り口にしたケアプラザレベル地域ケア会議を 2 月に開催し、ケアマネジャー、民生委員、自治会町内会との交流と、平時からの見守りの必要についての意見交換や課題を共有できました。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第 1 号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第 1 号介護予防支援事業）

- (ア) ケアプラザレベル地域ケア会議を 1 月に開催し、地域の社会資源（サロン、カフェ、サービス B、ケアプラザ事業）を担う関係者と、ケアマネジャー、民生委員との交流及び意見交換を行いました。また、9 月に開催したケアマネジャー向けの介護予防従事者研修（33 名参加）では、リハビリ職員（作業療法士）の講義やインフォーマルサービスの説明を取り入れ、本人の出来ることに着目しての自立に向けた視点をもったケアプラン作成の重要性を伝えました。
- (イ) 訪問型短期予防サービスの利用につなぐケースはありませんでしたが、(ア) の介護予防従事者研修で、ケアマネジャーに周知したほか、月 1 回の区役所との定例カンファレンスの中で訪問型短期予防サービスが効果的かどうかについて、支援の一つとして検討しました。
- (ウ) 5 職種で収集した情報を一冊のファイルにまとめ、どの職種でも閲覧できるようにしたほか、閲覧用カードを地域交流の職員が作成し、支援に活かしています。
- (エ) 区・4 包括共催で、介護予防・ケアマネジメント研修を開催しました。33 名のケアマネジャーが参加し、リハビリ職の視点と社会資源の活用についての研修を実施しました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- (ア) 地域で行っているスクエアステップ講座と玄米ダンベル講座の参加者に講座に参加していただき、ご自身の体験談から体操の効果をお話していただき、継続の動機付けを行いました。
- (イ) 新たな地域の間として東小学校コミュニティハウスで介護予防講座を開催し、町内会長・民生委員・シニアクラブの方々が 23 名参加しました。地域特性を説明し、介護予防への継続参加へ向けて情報提供をしました。
- (ウ) 9 月にみやぎ元気活動応援を発足しました。発足会ではころばんよ体操（座位編）と富士山体操を行い 11 名登録がありました。その後ボランティア講座・介護予防講座（区役所主催・宮崎 CP 主催）野毛山荘・宮崎まつり・第一地区シニアクラブの輪投げ大会で活動しました。
- (エ) 認知症予防のアプローチとしてスクエアステップ講座の他に、今年度は新たにコグ

ニサイズ体操と・口腔体操を同日 2 日間開催しました。特に口腔機能と認知症との関係の理解が深まり、口腔に対する関心が高まりました。

5 その他

(ア) 国の施策でもある GND（グリーンニューディール）事業の太陽光発電設備を管理しました。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

- (ア) 指定管理者として公正・公平に施設管理しました。
- (イ) 常に快適な施設を目指し、地域住民が安全・安心して地域ケアプラザの利用が出来るよう設備等の保守点検を専門業者が定期的に行いました。
- (ウ) 月 1 回の委託業者による定期清掃の他、職員も施設点検を実施し、日常清掃・整理整頓を心掛けました。警備も専門業者に委託し閉館後の防犯に努めました
- (エ) 施設周辺と 3 階の緑地帯の剪定や除草を年 1 回実施し、衛生及び外観を整備しました。
- (オ) 施設衛生は、感染症・食中毒予防で 11 月 1 日から翌 3 月末にかけて全館手すりやドアノブなどの消毒に努めました。来館者にはうがいコップ、指手消毒、手洗いをサービス利用者も含めて励行しました。またインフルエンザ流行時はマスク対応しました。
- (カ) 消防回りなどの施設点検を毎日チェックしました。

(2) 効率的な運営への取組について

- (ア) 常に節水、節電や資源の有効活用に心掛け資源に日常的な無駄を省くように職員一同で継続しました。
- (イ) 事務処理は法人本部と連携し、内部監査を実施しました。
- (ウ) 物品購入時、価格を常にインターネットで確認し比較検討しました。
- (エ) 職員間の連携を深め、スムーズに業務遂行を図るため部署会議を月 1 回開催しました。

(3) 苦情受付体制について

- (ア) 法人で公正・中立の立場で第三者委員を設置しており、施設に第三者委員の氏名や連絡先を掲示しました。
- (イ) 苦情相談対応マニュアルから苦情受付担当者、苦情解決責任者を設置し、苦情受付体制を整えました。
- (ウ) 苦情相談窓口、ホームページだけでなく、日頃から意見が言いやすい環境、関係づくりを目指すため、来館者に積極的に挨拶や声掛けの接遇に努めました。ご意見箱を設置しました。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- (ア) 事故防止マニュアル、福祉避難場所 開設・運営マニュアル等を適宜見直し、発災時の体制や対応の共有化を図りました。
- (イ) 福祉避難場所としての役割を認識し、区との連携を深めました。災害備蓄物資の消費期限等のチェックを行い適正な管理に努めました。
- (ウ) 全職員に伝わるように緊急連絡網を随時更新しました。
- (エ) AED の設置に伴い、備品の使用期限等を確認しました。
- (オ) 夜間はセキュリティシステムが稼働し、緊急時や防犯時に備えました。
- (カ) 年 2 回発災時避難誘導訓練を実施しました。内 1 回は地域住民参加で開催しました。
- (キ) 西区福祉施設と防災連絡会など地域の防災会議に参加しました。

(5) 事故防止への取組について

- (ア) 事故防止マニュアルを適宜見直し、職員の共有化を図りました。
- (イ) ヒヤリハット報告書を通じて未然に事故を防止するように取り組みました。その日のうちに職員に周知、注意喚起及び防止策を検討しました。また局からの他施設の事故報告・対策も職員間で共有しました。
- (ウ) ケアプラザ内の廊下や各部屋を環境整備しました。スリッパ使用による転倒リスクを軽減するために引き続き上履き持参を周知しました。
- (エ) ノロウイルス感染及び蔓延防止のためノロウイルス用具一式を施設内及び車両に準備しました。感染症予防の研修を実施しました。
- (オ) 職員が日常的に点検や目視を行い事故予測から事故の未然防止を心掛けました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- (ア) 個人情報保護取扱チェックリストを全職員で実施しました。FAX 送信時のマニュアルを見直し、部署会議で月 1 回個人情報の取扱について確認しました施設内で個人情報保護について研修を実施しました。
- (イ) 個人情報に関わる書類等は、全て書庫に施錠して保管管理しました。
- (ウ) 不要となった情報はシュレッダーや溶解しました。
- (エ) 事務所等への個人情報は郵送を基本としました。FAX 送信の場合、FAX 番号をハートページや名刺で確認、送信先件数を確認、FAX 番号は 2 回入力後送信できるように設定送信時は 2 名で指差し、声を出してダブルチェックしました。
- (オ) 送迎時、携帯電話は首から紐でかけるようにしました。使用時は暗証番号を入力し、普段はロックを掛けました。

(7) 情報公開への取組について

- (ア) 施設内で事業計画、決算報告、振り返りアンケートを結果等を掲示しました。
- (イ) 介護サービス情報公表システムや市の施設情報案内に情報提供しました。
- (ウ) プラザ広報紙で町内会回覧や掲示板、関係機関、地域の集まり等に配布しました。広報紙、事業案内チラシは法人ホームページに随時掲載し、広く案内しました。

(8) 人権啓発への取組について

- (ア) 人権啓発のポスターを館内玄関に掲示し、地域住民に周知しました。
- (イ) 外部研修で人権啓発研修に参加し、施設内でも年1回研修を実施しました。
- (ウ) 就業規則にパワーハラスメント、セクシャルハラスメント禁止事項及びマタニティハラスメント、パタニティハラスメント防止措置が規定されました。職員のハラスメント相談窓口を法人内で設けました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- (ア) 横浜市の取組に準じて冷暖房の温度設定、軽装での執務、不要な照明を消灯、使用していない事務用機器、ボイラー等の電源を切りました。またブラインドを使用しました。
- (イ) ヨコハマ3R夢プランに基づき、貸室利用者にゴミの持ち帰りの協力を依頼しゴミ削減の意識向上を図りました。
- (ウ) 施設の緑化に力をいれ、ボランティアの協力を得ながら、花壇や3階緑化維持管理しました。ボランティアや職員で花壇の水やりを実施しました。
- (エ) 個人情報が含まれていないかを確認し、使用済みの裏紙を有効活用しました。
- (オ) 職員会議で毎月電気・ガス・水道使用料を確認。節電・節水の意識が浸透するよう心掛けました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

3職種（看護師1名・主任ケアマネジャー1名・社会福祉士1名）で介護予防支援事業に従事しました。

《目標に対する成果等》

- ・西区をエリアとするケアマネジャー向けに介護予防支援・介護予防ケアマネジメント研修を実地しました。
- ・個別相談やカンファレンス、担当者会議に出席し、自立支援に資するケアマネジメントのための助言やインフォーマルサービスなどの情報提供を行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

計画通り、ありませんでした

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ・公正中立な立場で事業に取り組みました。
- ・自主事業や介護予防講座等、地域活動の情報を活用しながら、介護予防に取り組み地域で暮らし続ける支援をしました。

《利用者実績》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
128	134	129	130	135	130
10月	11月	12月	1月	2月	3月
134	135	135	125	119	114

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- ・ 管理者 1 名（常勤兼務）
- ・ 介護支援専門員 3 名（常勤専従）
- ・ 平成 30 年 4 月より特定事業所Ⅱ取得。主任介護支援専門員 3 名在籍。

《目標に対する成果等》

・ 介護支援専門員としての資質向上を常に目指しております。
各々の経験年数にあわせ、個人別研修計画を作成。
西区ケアマネ研究会、横浜市介護支援専門員連絡協議会主催の研修等に参加し
情報共有を行ない、日々の業務にいかせるよう努めました。

・ 安定した経営基盤の確立。
区役所・包括が着目する困難ケースを積極的に受け、安定した給付件数の維持を
はかりました。

・ 所内の連携の強化
事業所内で所長も交え週に一回会議を行い、社会資源等の周知・ケースの情報の
共有化をはかりました。
管理ソフトを用い、担当者不在時においても対応しやすい環境作りをしました。
困難ケースに関しては事業所内で問題解決の方法を探り、対応が難しい場合には地域
包括に相談・情報を共有化し解決のために一緒に動いて頂く方法をとりました。
医療面において難しいケースの場合は医療相談室に相談し迅速な対応を目指しまし
た。
介護保険給付に至らないケースにおいても真摯に対応し、地域包括等必要と思われる
社会資源に繋げました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- ありません。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

ケアマネという専門職としての成長を目指すだけでなく、ひとりの人間として
社会貢献できるよう研修計画の策定・1/週事業所内でミーティング・意見交換を
行ない、個人の課題を自身で見つけられるようにしました。
そしてその課題に対する研修に参加し、自身と向き合う中で更なる課題を見つけ
いけるように取り組んできました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
119	124	123	119	124	126
10月	11月	12月	1月	2月	3月
123	127	136	136	142	147

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 通所介護計画書作成 ● 介護サービス（食事・排泄・更衣・介助等）
- 生活指導（生活援助） ● 健康状態の確認 ● 日常機能訓練（日常生活動作）
- レクリエーション ● 送迎 ● 給食 ● 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分		● 2割負担分		● 3割負担分	
（要介護1）	692円	（要介護1）	1,383円	（要介護1）	2,075円
（要介護2）	816円	（要介護2）	1,632円	（要介護2）	2,448円
（要介護3）	947円	（要介護3）	1,893円	（要介護3）	2,840円
（要介護4）	1,076円	（要介護4）	2,151円	（要介護4）	3,226円
（要介護5）	1,205円	（要介護5）	2,410円	（要介護5）	3,615円
入浴負担	54円	入浴負担	108円	入浴負担	161円
● 食費負担	700円				

- 介護職員処遇改善加算Ⅰ 介護報酬総単位数×サービス別加算率5.9%×地域単位10.72円の額を原則1割、一定以上所得者は2割又は3割負担

《事業実施日数》 週 7 日（年末年始〔12/29～1/3〕を除き、年中無休）

《提供時間》 9:00～16:00、9:30～16:30、10:00～13:00、10:30～13:30

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務1名）
生活相談員	4名（常勤兼務4名）
看護職員	3名（常勤兼務1名、非常勤兼務2名）
介護職員	16名（常勤専従2名、常勤兼務4名、非常勤10名）
機能訓練指導員	3名（常勤兼務1名、非常勤兼務2名）
運転業務職員	13名（常勤兼務6名、非常勤6名、非常勤兼務1名）

《目標に対する成果等》

日頃、外出の少ないご利用者様に健康チェック、入浴、食事、体操、レクリエーションなどのサービスを提供することで、一日を楽しく、安心、安楽に過ごしていただきました。また、その有する能力に応じ、自立した日常生活ができるように援助しました。信用と信頼を大事に丁寧に妥協せず取り組みました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①時間短縮サービス、カットサービスを継続いたしました。
- ②生活機能訓練やレクリエーションにて、楽しみながら日常の動作機能訓練を行いました。
- ③口腔ケアの実践：うがいや昼食前の口腔体操、食後の歯磨き・義歯洗いの奨励など、口腔清潔の啓発、援助を行いました。
- ④食事の充実：毎月1回「給食委員会」にて、メニューの見直しや要望、季節にあった行事食の内容検討など、更なる充実を図りました。
- ⑤お客様満足度調査の実施：アンケート調査を行い、結果内容を職員間で検討し、より喜ばれるサービスの改善に努めました。
- ⑥レクリエーションの充実：トランプ・麻雀・書道など、ご自身で選択していただきました。また、好評なアニマルセラピーボランティア（ワンタッチクラブ）に、継続的に訪問活動していただきました。
- ⑦毎月季節にあわせた薬湯週間を設けました。
- ⑧施設ベランダで家庭菜園を行いました。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
673	674	690	716	698	649
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
674	635	598	583	598	670

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 通所介護計画書の作成 ●介護サービス（食事・排泄・更衣・介助等）
- 生活指導（生活支援） ●健康状態の確認 ●日常機能訓練（日常生活動作）
- レクリエーション ●送迎 ●給食 ●入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要支援1） 1,766円
 （要支援2） 3,621円
 運動機能向上加算 242円

● 2割負担分

（要支援1） 3,531円
 （要支援2） 7,241円
 運動機能向上加算 483円

● 3割負担分

（要支援1） 5,297円
 （要支援2） 10,861円
 運動機能向上加算 724円

● 食費負担 700円

● 介護職員処遇改善加算Ⅰ 介護報酬総単位数×サービス別加算率5.9%×
 地域単価10.72円の額を原則1割、一定以上所得者は2割又は3割負担

《事業実施日数》 週 7 日（年末年始〔12/29～1/3〕を除き、年中無休）

《提供時間》 9:00～16:00、9:30～16:30、10:00～13:00、10:30～13:30

《職員体制》通所介護事業の全職員が第1号通所事業に兼務しています。

《目標に対する成果等》

楽しく生き生きと過ごしていただき、ご利用者様個人の有する能力に応じ、自立支援をサポートいたしました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①生活機能訓練やレクリエーションにて、楽しみながら日常動作機能訓練を行いました。
- ②口腔ケアの実践：うがいや昼食前の口腔機能体操、食後の歯磨き・義歯洗いの奨励など、口腔清潔の啓発、援助を行いました。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
11	11	11	11	12	12
10月	11月	12月	1月	2月	3月
14	15	15	15	15	16

平成30年度「横浜市宮崎地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)＜地域活動＞

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	19,070,413		19,070,413	19,070,413	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当 事業	1,110,000		1,110,000	876,300	233,700	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0		0	22,754	△ 22,754	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	この列は入力しない
駐車場利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
その他(指定管理料充当)	0		0	22,754	△ 22,754	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	△ 3,587,500		△ 3,587,500	△ 3,587,500	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	3,587,500		3,587,500	3,587,500	0	
収入合計	20,180,413	0	20,180,413	19,969,467	210,946	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	12,000,000		12,000,000	11,685,987	314,013	
本俸	8,322,000	8,316,000	16,638,000	8,180,332	8,457,668	
社会保険料	1,062,000	1,062,000	2,124,000	1,195,065	928,935	
手当計	2,376,000	2,376,000	4,752,000	2,072,888	2,679,112	
健康診断費	100,000	100,000	200,000	107,411	92,589	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふりしど
退職給付引当金繰入額	140,000	140,000	280,000	110,307	169,693	
その他			0	19,984	△ 19,984	
事務費	738,500		738,500	993,761	△ 255,261	
旅費	28,000		28,000	19,544	8,456	
消耗品費	276,500		276,500	216,455	60,045	
会議随費			0	0	0	
印刷製本費	12,000		12,000	11,750	250	
通信費	135,000		135,000	218,020	△ 83,020	
使用料及び賃借料	0		0	0	0	
横浜市への支払分			0	0	0	
その他			0	0	0	
備品購入費			0	0	0	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険			0	0	0	
職員等研修費	21,000		21,000		21,000	
振込手数料	266,000		266,000	13,122	252,878	
リース料			0	322,997	△ 322,997	
手数料			0	0	0	
地域協力費			0	0	0	
その他			0	191,873	△ 191,873	
事業費	1,707,000		1,707,000	1,161,236	539,417	
運営協議会経費	42,000		42,000	35,653	6,347	予算：指定額
指定管理料充当 事業	1,665,000		1,665,000	1,125,583	539,417	
管理費	2,613,000		2,613,000	2,959,652	△ 346,652	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算：指定額
光熱水費			0	0	0	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	この列は入力しない
水道料金			0	0	0	
清掃費	861,000		861,000	826,821	34,179	
修繕費	474,000		474,000	844,669	△ 370,669	予算：指定額
機械整備費	172,000		172,000	172,006	△ 6	
設備保全費	928,000		928,000	937,664	△ 9,664	
空調衛生設備保守	401,000		401,000	400,869	131	
消防設備保守	67,000		67,000	66,891	109	
電気設備保守	137,000		137,000	136,650	350	
害虫駆除清掃保守	34,000		34,000	34,402	△ 402	
駐車場設備保全費			0	0	0	
その他保全費	289,000		289,000	298,852	△ 9,852	
共益費			0	0	0	
その他	178,000		178,000	178,492	△ 492	
公租公課	960,000	0	960,000	0	960,000	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	960,000		960,000	0	960,000	
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他()			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
リース対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	18,018,500	0	18,018,500	16,800,636	1,211,517	
差引	2,161,913	0	2,161,913	3,168,831	△ 1,000,571	

自主事業費収入	1,665,000		1,665,000	0	1,665,000	
自主事業費支出	1,665,000		1,665,000	0	1,665,000	
自主事業収支	0	0	0	0	0	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

平成30年度「横浜市宮崎地域ケアプラザ」

収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,535,000		23,535,000	23,535,000	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	140,000		140,000	140,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入			0		0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0	0	0	
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	168,364	△ 168,364	
自主事業収入			0		0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	30,767	△ 30,767	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理料充当)	0		0	30,767	△ 30,767	
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	29,464,000	0	29,464,000	29,663,131	△ 199,131	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	24,480,000	0	24,480,000	27,314,029	△ 2,834,029	
本俸	14,638,000		14,638,000	16,416,750	△ 1,778,750	
社会保険料	3,153,000		3,153,000	3,981,462	△ 828,462	
手当計	6,243,000		6,243,000	6,415,118	△ 172,118	
健康診断費	50,000		50,000	42,618	7,382	
勤労者福祉共済掛金			0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	396,000		396,000	443,014	△ 47,014	
その他			0	15,067	△ 15,067	
事務費	1,379,000	0	1,379,000	677,596	701,404	
旅費	17,000		17,000	17,478	△ 478	
消耗品費	701,000		701,000	187,866	513,134	
会議随費			0	0	0	
印刷製本費	6,000		6,000	11,750	△ 5,750	
通信費	467,000		467,000	261,594	205,406	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分					0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費			0	0	0	
図書購入費			0	0	0	
施設賠償責任保険			0	0	0	
職員等研修費	30,000		30,000	0	30,000	
振込手数料	32,000		32,000	12,292	19,708	
リース料	126,000		126,000	82,861	43,139	
手数料			0	0	0	
地域協力費			0	0	0	
その他			0	103,755	△ 103,755	
事業費	1,339,000	0	1,339,000	1,127,569	211,431	
協力医	630,000		630,000	504,000	126,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	400,000		400,000	127,479	272,521	
指定管理料充当事業(介護予防)			0	469,767	△ 469,767	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	26,323	282,677	予算:指定額
管理費	695,000	0	695,000	786,732	△ 91,732	
建築物・建築設備点検			0	0	0	予算:指定額
光熱水費		0	0	0	0	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	この列は入力しない
水道料金			0	0	0	
清掃費	229,000		229,000	219,786	9,214	
修繕費	126,000		126,000	224,531	△ 98,531	予算:指定額
機械警備費	46,000		46,000	45,722	278	
設備保全費	247,000	0	247,000	246,518	482	
空調衛生設備保守	107,000		107,000	106,559	441	
消防設備保守	18,000		18,000	17,781	219	
電気設備保守	36,000		36,000	36,323	△ 323	
害虫駆除清掃保守	9,000		9,000	9,144	△ 144	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	77,000		77,000	76,711	289	
共益費			0	0	0	
その他	47,000		47,000	50,175	△ 3,175	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他()			0	0	0	この列は入力しない
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当施設設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	27,893,000	0	27,893,000	29,905,926	△ 2,012,926	
差引	1,571,000	0	1,571,000	△ 242,795	1,813,795	

自主事業費収入	0					
自主事業費支出	0					
自主事業収支	0			0		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入				0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出				0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				0		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名:横浜市宮崎地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	1,479,000	1,570,392	-91,392	22,375,000	25,157,965	-2,782,965	70,250,000	62,573,936	7,676,064	3,668,000	3,721,794	-53,794
	その他	0	0	0	0	0	0	7,881,000	7,894,805	-13,805	0	0	0
	介護予防ケアマネジメント費			0			0			0			0
	事業・負担金収入			0			0			0			0
	利用者等利用料収入			0			0	7,881,000	7,894,805	-13,805			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
	収入合計(A)	1,479,000	1,570,392	-91,392	22,375,000	25,157,965	-2,782,965	78,131,000	70,468,741	7,662,259	3,668,000	3,721,794	-53,794
支出	人件費			0			0	82,030,000	79,439,021	2,590,979			0
	事務費			0			0	9,479,500	9,867,285	-387,785			0
	事業費			0			0	10,324,000	10,059,343	264,657			0
	管理費			0			0	2,267,000	6,088,040	-3,821,040			0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用者負担軽減額			0			0			0			0
	消費税			0			0			0			0
	介護予防プラン委託料			0			0			0			0
				0			0			0			0
				0			0			0			0
			0			0			0			0	
			0			0			0			0	
			0			0			0			0	
	支出合計(B)	0	0	0	0	0	0	104,100,500	105,453,689	-1,353,189	0	0	0
	収支 (A)-(B)	1,479,000	1,570,392	-91,392	22,375,000	25,157,965	-2,782,965	-25,969,500	-34,984,948	9,015,448	3,668,000	3,721,794	-53,794

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

平成30年度 自主事業報告書

横浜市宮崎地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
①地域支援事業 「ワンコイン音楽サロン」	目的：「歌う」「新しい歌を覚える」事や声を出すための毎回欠かさず行うストレッチ、発声練習で体と心の健康作りを支援。また継続し歌うことでの記憶訓練になる。地域住民・多世代交流の場。 内容：月替わりで季節の歌などを歌い、まつり等で披露する練習曲の指導を実施。	毎月第1土曜日 13:30～15:30 12回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
②ボランティア育成事業 「パティシエガールズ」	目的：お菓子をツールとした福祉保健活動を行う。 内容：地域住民の集まる企画に手作りのお菓子を提供した。	毎月第1土曜日 9:00～12:00 12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
③高齢者支援事業 「新大人の学校」	目的：学習療法を用いた、認知症・介護予防・改善を目指し、基本的に難易度の低い問題を解いて脳トレを行い、若々しさを保つ為の教室。 内容：独自でチャレンジできる方を対象としてご自分で答え合わせをする座学のみ教室の開催。毎回文字色読みテストを実施。	毎月第1・3火曜日 13:30～14:30 24回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
④高齢者支援事業 「大人の学校」	目的：学習療法を用いた、認知症・介護予防・改善を目指したサロンです。地域の方、ボランティアの方との交流の場。 内容：簡単な計算ドリル、音読をし漢字の書き取りをする。学習が終わると皆で歌を歌い、体操やレクなどで交流を図った。	毎月第2・4火曜日 13:30～14:30 24回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑤高齢者支援事業 しあわせサロン宮崎	目的：家庭に閉じこもりがちな高齢者の外出や仲間同志の交流を図る。また、高齢者同士の見守り、CPとのかかわりも方も随時伝えていく場。介護予防啓発。またレク参加でボランティア団体に呼びかけ、育成も図る。 内容：会食会、レクリエーション実施。	毎月第2水曜日 11:30～14:00 12回開催

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑥高齢者支援事業 「宮崎式脳トレ健康マージャン講座」	目的：初心者向マージャン講座、指と脳を動かし、活性化を図る。また、マージャンゲームでの居場所づくりや地域の交流を図る。3回シリーズで利用者にプラザへの動きを作る。西区内の地域へボランティアへの呼びかけ、経験を生かすよう働きかける。 内容：プラザをよく知るマージャン経験者を指導ボランティアとし、土曜の夜間の貸室を使って参加者にリラックスモードで手にしたことがなかったマージャンゲームを教える講座（座学と実践、実践での速やかな質疑応答）。また、12月からは地域の居場所を利用し出前講座を実施した。	9月1, 8, 22日(土) 17:30～20:30 3回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑦子育て支援事業 「天使のほっぺ」	目的：0歳児親子を対象。お母さん同士の交流の場。 内容：サロン型を中心に、主にお母さん同士が赤ちゃんと一緒に集い、子育ての悩み事を相談したり、情報交換をしたりするフリースペース。単発にて講師による講座を開き、子どもの発達、離乳食の座学で子育てを学びや体験を実施。	毎月第1月曜日 10:30～12:00 12回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑧高齢者支援事業 「脳いきいき宮崎マージャンクラブ」	目的：マージャンをツールとした介護予防・引きこもり防止 多世代交流・地域交流をメンバーで図る 内容：宮崎地域CP版のルールを作り、参加者でマージャンを楽しむ。メンバー同士の交流をした。	毎月第2・4土曜日 13:00～17:00 24回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑨子育て支援事業 「ぽっぽっぽっ withみやざキッズ」	目的：乳幼児親子同志とおはなし会ボランティアグループ・CP職員の交流の場。 内容：親子サロン+乳幼児のおはなし会を開催する。ボランティアと職員が子育て相談などを行う。読み聞かせ、手遊びなどで交流を図った。	毎月第3月曜日 10:30～12:00 12回開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑩地域支援事業 「男性のための料理教室」	目的：男性の初心者向け料理教室。料理をツールとした福祉保健活動。 内容：包丁の持ち方から、食材の切り方、調味料の計量の仕方レシピの味方など料理の基本から簡単な料理を学んだ。	毎月第3水曜日 10:00～13:00 12回開催

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑪地域支援事業 「小学生おもしろ 科学実験教室」	目的：小学生親子に地域CPを知って頂く。小学校の違う多 学年生の交流。科学を観察、体験で感じる。地域近郊の施 設との連携。 内容：青少年センターの職員に協力をいただき科学実験 ショーと科学の実験を実施。	年1回 5月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑫地域支援事業 「小学生パン作り 教室」	目的：小学生親子に地域CPを知って頂く。小学校の違う多 学年生の交流。学ぶ面白さを体験する。グループワークの 大切さ、プロセスを学ぶ。 内容：パンの形成から焼き上がりまでの流れを学んだ。	年1回 6月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑬地域支援事業 「小学生夏休み工 作教室」	目的：小学生親子に地域CPを知って頂く。学校の違う小学 校多学年生の交流。学ぶ面白さを体験する。グループワー クの大切さ、プロセスを学ぶ。 内容：講師を呼び、身近にある材料を使って夏休みの工作 をする。材料を工夫していく勉強をした。	年1回 7～8月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑭障がい児・者 夏余暇支援事業	目的：障がい児の余暇活動支援。参加者やボランティアの 方と障がい児・者の交流。新しい事にチャレンジし、色々 な活動を体験する。 内容：参加者やボランティアの方と一緒にパン作り、お餅 つきやレクリエーションなどの実施。	年1回 8月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑮地域支援事業 「宮崎まつり」	目的：①地域住民とCPとの交流の場。②地区社協と共催す る事で地域住民との繋がりを深めていく。③CP啓発。 内容：福祉保健活動されている地域住民や障害者施設、団 体による模擬店。貸室団体による催し物などを開催。	年1回10月 第3土曜日 11:00～14:00

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑯地域支援事業 西区民祭り	目的:参加型の地域の交流の場。ブースを借りて地域の方、 まつり参加者にたいやき販売を行い交流を図った。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑰地域支援事業 ボランティア育成 事業 宮崎アフタヌーン カフェ	目的：音楽を通して地域住民同士の交流を図る。 内容：当CPにて活動の演奏団体がボランティアとしてミ ニコンサートを行い、地域の参加者と交流を実施。	年2回 6月／11月

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑱地域支援事業 「お正月飾り教室」	目的：当CPにて地域住民が集い、談話しながら1つの作品を作り上げる、季節の手芸教室。地域住民どうしの交流の場。指を使い、細かい作業をすることで、介護予防にもなる。地域のなかでの福祉保健活動をしやすい環境を作る。 内容：お正月の飾りを講師より習い、参加者同士の交流を実施。	年1回 12月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑲地域・高齢者支援事業 「ボランティア講座」	目的：ボランティア育成の為の養成講座。また認知症のサポーターを育成する。 内容：ボランティア経験者や講師からボランティアについて学び、自身に合った活動を知るなど自己啓発をする。認知症の学びや支援を学ぶ機会を持った。	年1回 全2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑲-2地域・高齢者支援事業 「シニアボランティアポイント研修」	目的:元気高齢者が地域の介護施設等でボランティア活動を行うことによる健康維持、介護予防、社会参加、地域貢献を通じた生きがいづくりを促進する。また、地域とのつながりや施設利用者の生活をより豊かにすることを目的とする。 内容：シニアボランティアの登録を促すため、65歳以上の高齢者に事業目的を説明し研修を実施。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑲-3地域・高齢者支援事業 「ボランティア出前講座」	目的：自分の趣味や現役時代の仕事経験を生かし、地域で活躍できる活動を支援し、人のつながりを作る 内容：地域の町内会に出向き、初めてのボランティア活動や個々の取り組みなど体験談を話してもらい、活動を知ってもらう、またケアプラザが取り組んでいること、求めることもあわせて伝えていった。 また、車椅子の取り扱い方や乗る人の身になって観察し支援の仕方を学ぶ場を提供した。	2月1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
⑳ボランティア育成事業 ボランティア交流会	目的：当ケアプラザにてボランティア活動をしている方・団体との地域の団体との交流 内容：活動を知り情報交換をすることで、地域のなかでの福祉保健活動をしやすい環境を作る居場所とした。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
㉑地域支援事業 多世代交流会	目的：多世代交流による住みよい地域作り。幼稚園児、または小学生と高齢者の交流の場を作ることで、お互いの色々な学びを得る。お年寄りから子供へ地域の歴史など語っていただく。またそこから生まれる作品なども期待できる。 内容：会食会で高齢者と幼稚園児の交流を実施。地域の高齢者にフラダンスを披露	年2回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
②地域支援事業 「みんなのまつり」	目的:参加型の地域の交流の場。 内容:打合せから準備設営などの参加と舞台発表をした。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
③地域支援事業 他地域ケアプラザとの共催企画 「横浜ふれあいウォーキング」	目的:地域を超えた仲間づくりを促進する。ウォーキングを通して元気に歩くことで健康づくりをし、高齢者の引きこもり防止と仲間づくりの場を提供。 内容:関心の高い大河ドラマにゆかりのある人物や場所を巡り、歴史に触れる機会とする。横浜開港を絡めた歴史ウォークの実施。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
④高齢者支援事業 高齢者の為のスマホ講座」	目的:地域の方に時代の必須アイテムであるスマートフォン(スマホ)を体験し、地域社会における通信機器の取り扱いを覚え、不安を払拭する。皆で覚え、地域の交流を図る。便利な講座を身近なケアプラザで体験することでプラザの利便性を知ってもらう。 内容:スマートフォンの基本をデモ機を使用し体験する講座を実施。	年1回

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市宮崎地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
①地域支援事業 「ワンコイン音楽サロン」	地域住民誰でも	200667	地活	-4833	205500		122496	60699	17472
	50名		包括						
	500円		介護						
			生活						
②ボランティア育成事業 「パティシエガールズ」	地域住民誰でも	6720	地活	6720	0		0	0	6720
	5名		包括						
	なし		介護						
			生活						
③高齢者支援事業 「新大人の学校」	地域住民誰でも	13440	地活	1540	11900		0	0	13440
	20名		包括						
	月100円		介護						
			生活						
④高齢者支援事業 「大人の学校」	地域住民誰でも	280426	地活	42326	213000	25100	51198	202908	26320
	20名		包括						
	月1000円		介護						
			生活						
⑤高齢者支援事業 「しあわせサロン宮崎」	70歳以上の一人暮らし・ 日中独居	189316	地活	78816	110500		0	178844	10472
	40名		包括						
	500円		介護						
			生活						
⑥高齢者支援事業 「宮崎式脳トレ健康 マーじゃん」	地域住民誰でも	3000	地活	3000	0		0	1320	1680
	20名		包括						
	なし		介護						
			生活						
⑦子育て支援事業 「天使のほっぺ」	0～1歳児親子	18152	地活	18152	0		6682	5870	5600
	15～20名		包括						
	なし		介護						
			生活						
⑧高齢者支援事業 「脳いきいき宮崎マー ジャンクラブ」	地域住民誰でも	159102	地活	-2298	161400		0	133566	25536
	36名		包括						
	300円		介護						
			生活						
⑨子育て支援事業 「ぼっぼっぼっ with みやぎキッズ」	未就学児親子	30657	地活	30657	0		24497	0	6160
	当日型参加		包括						
	なし		介護						
			生活						
⑩地域支援事業 「男性のための料理教 室」	地域住民誰でも	34248	地活	15748	16500	2000	0	28648	5600
	7名		包括						
	500円		介護						
			生活						
⑪地域支援事業 「小学生おもしろ科学実 験教室」	小学生	11003	地活	8503	2500		3341	7102	560
	20名		包括						
	500円		介護						
			生活						
⑫地域支援事業 「小学生パン作り教室」	小学生	37015	地活	1015	36000		0	34971	2044
	72名		包括						
	500円		介護						
			生活						

事業ごとに別紙に記載してください。